
落っこちてきた剣アーチャーさんの話 拡大版

naka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

落つこちてきた剣アーチャーさんの話 拡大版

【Zコード】

Z6170Z

【作者名】

naka

【あらすじ】

短編「落つこちてきた剣アーチャーさんの話」の拡大版です。F
ATEのアーチャーを残念な感じでアビス世界に投入して見ました。
書きたいところだけ書いていく感じのダイジェスト版です。広い心
で見てやってください。この作品はArcadiaでも投稿してい
ます。

深淵の世界に剣が突き刺さったとき、世界は改変される。

空が赤く染まり夕日がよく見えていた。

渡り鳥は虹色に染まった雲をくぐりぬけ、すでに姿は遙か遠く空は赤々と染まっていた。

落ちていぐ夕焼けを背にルークは大きな木の上でぼんやりと空を眺めていた。

そこは屋敷の裏庭で一番目立たない、人通りの少ない場所で煩わしここから逃げ出すにはもってこいの場所だった。

「どうからか聞き覚えの無い声が聞こえた気がして、きょろきょろと周りを見渡していたところで、何かが髪をかすつて落つこちていった。

驚いて危うく木の枝から落ちそうになり、あわてて体勢を立て直して下を見ると一振りの剣が庭に突き刺さっていた。

「どうからともなく「身体は剣ができる」と何度も何度も繰り返しつぶやいてるのが聞こえて、

「どうどう頭がおかしくなっちゃったのかなー」

などと思わずつぶやいたのだった。

それはとても不思議な剣だった。

「召喚したのは君か」とか「どうしてこんな姿で」とか「幸運に恵

まれなさ過ぎる「などよくわからない」ことをべらべらと喋りたてで、ルークを困惑させた。

それでも彼（？）に自身の境遇を話せば、「この通り手も足も無いが、話し相手ぐらうにはなれつ」と気持ちよく承諾してくれた。奇妙なことに、どんなに力をこめてもその剣を土の中から引き抜くことはできなかつた。それでも話すだけであれば何の問題も無く、ルークは毎日のように彼に会いに行き、そこでいろいろな話をしていた。

もつと不思議なことは、その剣をルーク以外は見ることができないようなのだ。誰も彼もがその剣を無いものとしていて、無視しているのだった。

そして、ルークも剣の話をしようとしても、何故か言葉にすることができなくて、結局のところ彼一人の秘密として胸にしまうしかなかつた。

それから何年もたつて、その剣は退屈な日々を送るルークにひとつは無くてはならないものになつていた。

その日もいろいろな話をしていたが、屋敷の人間に呼ばれて剣のそばを離れてしばらく経つたとき、聞き覚えの無い歌が聞こえてきた。

そのあとしばらぐルークが現れるることは無かつた。

屋敷内での騒ぎから、ルークがどこかへ言つてしまつたところとはわかつたが、剣はそれこそ手も足も出ずやうに突き刺さつていなかつた。

それから幾重もの朝と夜が過ぎて、ルークが帰ってきた。

鮮烈な赤のイメージを纏う懐かしい女性を伴つて。

その女性、凜はその剣を見て「あーはは、アーチャーが剣！あはは」「剣でできてるどころか剣！」「なにそれーおなかが揃れそう！」などと指差して笑つてたが、そこは優秀な魔術師であるから、あっさりと封印を解いてしまった。

何故、剣の状態なのは結局のところわからなかつたが、剣はなんだかんだでルークの旅に付き合つことになつた。

そしてアクゼリュスにて、ルークが尊敬する師匠の姦計にかかりて、その内に秘める力で一つの街を滅ぼそうとしたその瞬間。

「　問おう。君が私のマスターか」

白い髪と浅黒い肌の赤い外套を羽織つた騎士がそこに降臨した。

結論から言つと、アクゼリュスは落ちた。

それもそのはず、パッセージリングのすぐそばでぶちかました超振動に対し、熾天覆う七つの円環^{ロウ・アイアス}を展開して防御しようとすればそうなる。

ルークが無理やりの召喚で力の大半を削られていなければ、「問おう」の「と」の字を言つ前に、アーチャーは消滅したのではないかと思われる。

ヴァンが捨て台詞を吐いて逃走したあと、アーチャーはルークをその場に正座させて延々と文句を言い連ねていた。

曰く、「マスターは私に何か恨みでもあるか」「召喚した瞬間に特大級の魔術をぶちかますなど正気か」「人の言葉を鵜呑みにするからこうなるのだ」などとこめかみに青筋を立てていた。

血相を変えて突入してきた仲間達はその様子に度肝を抜かれたようにな然としていたが、大地が激しくゆれ始めたのに気づき、また血相を変えてパッセージリングの操作盤に駆け寄った。

ジョイドの機転とアーチャーの解析によりパッセージリングを制御して、大地を降下させることで被害の拡大を抑えることはできた。しかし、その被害は甚大で落盤や地盤沈下などで多大な死傷者が出てることは想像がついた。

その後、救援を呼ぶためにアーチャーはティアを連れてユリアシ

ティーに走つていった。ティアをお姫様抱っこして。

うなだれるルークを無視して、他の人々は各自生存者を探すために散つていった。親友のガイでさえも言葉をかけることなく、離れていつたのでルークにとつてはかなり堪えた。

しばらく救援活動をこなしたあと、彼らはコリアシティから来た人たちに後を任せて、ユリアシティにおもむいた。

その場にて、アッシュがルークがレプリカであることが暴いたり、もめて刀傷沙汰になつたりルークが昏倒してしまつたりしたが、アーチャーは特に手も足も口も挟むことなく周りを観察していた。

剣だったのだ。

華麗にお姫様抱っこして走つていったアーチャーだったが、辿り着いた途端にカラッと剣の姿に戻つてしまつたらしい。

再び人型になれるようになるには、それなりの時間を必要とした。

無理にいい格好をしようとするからそうなる。

アーチャーに対する尋問に関しては、特に物珍しいことは起らなかつたので、詳細については割愛する。

ジエイドがネチネチと質問してそれをアーチャーがのらりくらりとかわしていたのを見て、G氏は「胃が崩壊しそうだ……」、A氏「ちつ、すかしやがつて」、E氏「えつと、あのその……」、A女史「シッ、触らぬ神に祟り無しですよ！」などといづコメントが寄せられたらしい。

仲間達がルークをクリフォトに残して外郭大地にもどつたあとも、まだルークは昏睡状態のままだつたが、しばらく経つてから焦つた

表情で飛び起きた。

セントビナーが落ちることで、今すぐでも走り出そうじそ
うなほどに軽くパニックに近い状態だった。しかし、ティアの冷た
い言葉とアーチャーの小山になるような小言のおかげで冷静になり、
決意を持つて気持ちも新たに旅立つた。

それから。

あちこちに走り回って、ルークたちはマルクト帝国へと訪れた。
首都目前というところで、六神将のラルゴとシンクがあらわれた。

ナタリアが弓矢を放ち六神将との戦線が切つて落とされたと思つ
た瞬間、後ろからルークに対してガイが剣を振りかぶった。

ルークは剣の状態だつたアーチャーを使ってその刃を防いだが、
その攻勢は激しくアーチャーのサポートをもつてしても、守りに回
るのがせいぜいだった。

乱戦状態の中で、まともに反撃できないままルークの手から剣が
弾き飛ばされてしまった。

そして、ガイの剣が振り下ろされようとしたとき、蒼い風が吹き
抜けた。

金色の髪をきつちりと結い上げて、白銀の鎧を着込んだ騎士がそ
こに立っていた。彼女は「助太刀すると」一言だけ告げると、あつ
という間にガイを叩き伏せて隠れ潜んでいるシンクを見破り、矢を
射るように指示した。

不利と見るやラルゴとシンクは素早くその場を立ち去った。

アーチャーは複雑な表情で騎士の前に立ち、彼女、セイバーに声

をかけた。

何故」「元のだと」「う間に、困ったような顔でアーチャーを見た。

「わかりません、気がついたらここに・・・。目が覚めたらここに居たのです。それで、目の前にこれが・・・」

そつと差し出された剣を見て、目を見開いて黙り込んだ。

「どういふ理屈のかわっぱりわからないのですが、これはたぶん・・・」

セイバーが言葉を言い終える前に、アーチャーはその剣を取り上げて明後日の方角に投げ捨てた。

剣は「なんでもさ――――」とこう囁びを残して飛んでいき、セイバーは「シロウ――――!――!」と叫んで追いかけていった。

そして、アーチャーはつむぎよつじやがみこんで、「なんでもさ」と呟いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6170z/>

落っこちてきた剣アーチャーさんの話 拡大版

2011年12月20日19時52分発行